

長野市総合計画審議会作業部会 会議概要（報告）

会議名	市民フォーラム21 第3回 環境部会
日時	平成22年11月12日（金）午後3時から午後5時
会場	長野市役所第一庁舎 8階 第一委員会室
出席者	作業部会員 (敬称略)
	関係課員

会議次第

- 1 開 会
- 2 市民フォーラム21 第2回 環境部会 会議概要について
- 3 ワークショップのまとめについて
- 4 本日の日程等について
- 5 ワークショップ
テーマ：政策2 - 2 資源が循環する環境共生都市の実現
- 6 その他
 - (1) 今後の予定について
 - (2) 事前課題シートについて
- 7 閉 会

会議の概要（主な決定事項、質疑等）

- 3 ワークショップのまとめについて
修正の発言があり、別紙1のとおり修正した。（第2回 環境部会 10月21日開催）
- 5 ワークショップ
テーマ 政策2 - 2 資源が循環する環境共生都市の実現
2グループに分かれ、ワークショップを行った結果、別紙2のとおり発表があった。

市民フォーラム21 第2回環境部会 ワークショップまとめ

別紙 1

日時	平成22年10月21日 (木) 午前 9時 30分	会場	長野市役所会議室 18
政策	良好な生活環境の形成		
2-3			

行	大項目 項目	分類
1	不法投棄	W
2	河川敷、山林へのごみの不法投棄が後を絶たない。	W
3	不法投棄に対する住民の目が厳しくなっている。	W
4	中山間地域では、不法投棄が多く見られる。	W
5	市内の数ヶ所に、曜日 時間の制限のないゴミステーションを設ける。	W
6	中山間地に行くと不法投棄が目立つ。良い解決策があるか。	W
7	山への不法投棄をなくす。	W
8	市外地の河川 (支流) が非常に荒れている。	W
9	川へのごみの投げ捨てが多い。	W
10	里山 (中山間地)	W
11	高齢化がすすんで山間部の荒廃地が増えてきている。	W
12	グランドデザインが不動産に任されている。農地が宅地化されている。	W
13	農的環境を創造する。(森林、農地)	W
14	ごみ - 産業廃棄物	W
15	廃棄物の該当性への判断の基準にあいまいな点がある。	W
16	産業廃棄物と一般廃棄物の区分が紛らわしい。	W
17	廃棄物の処理に係る許可申請等に対する適正な審査が行われている。	W
18	法の規則のかからない施設、業に対する指導に限界がある。	W
19	ごみ - 一般廃棄物	W
20	家庭ごみの分別は、費用の面で有効である。更に分別できると更に良い。	W
21	家庭ごみ (可燃) を市が1リットル1円という手数料で回収してくれる。	W
22	ごみリサイクル100%を目指す。	W
23	剪定枝が資源で回収されることとなった。	W
24	ごみゼロ運動など美化活動が継続している。	W
25	朝、周辺の企業がごみ拾いをしている。	W
26	ごみ - モラル	W
27	街中にごみが多く、特にたばこのポイ捨てが目立つ。	W
28	ポイ捨て、特にたばこのポイ捨てが多い。	W
29	公共施設でのたばこの禁煙は当たり前であり、民間施設でも禁煙すべきである。	W
30	ごみ等のポイ捨てがなかなかなくなる。	W
31	ごみを捨てた人にはペナルティをかけるべきである。	W
32	放置自転車は歩道の邪魔である。	W
33	ごみ集積所がごみ収集前の資源の持ち去りにより、ごみが散乱し、悪臭がある。	W
34	高齢者の中には、ごみ出しが困難な人がいる。	W
35	住民自治協議会での取り組み。	W
36	光	W
37	24時間営業の店の騒音 光害の問題がある。	W
38	フルカットの外灯設置が出てきているのがあまり知られていない。	W

分類の記号

W :ワークショップで検討された意見

K :審議会委員 (他作業部会所属) の意見 (今回なし)

要約	作業部会意見 まとめ
山林、河川への不法投棄が多い。	不法投棄防止対策の推進
荒廃地が増加している。 農地が宅地化されている。	里山、森林 農地の保全
産業廃棄物と一般廃棄物の区分が あいまいである。	廃棄物の適正処理の周知 指導
分別や資源回収の取組が行われている。	リサイクル率の向上 ポイ捨てや放置されにくい環境づくり 家庭ごみの分別、ごみ出しルールの徹底
ごみゼロ運動などの美化活動が継続している。 たばこやごみのポイ捨てが多い。 放置自転車がある。 ごみが散乱し、悪臭がある。	
光害が問題となっている。	光害防止対策の推進

2-3 良好な生活環境の形成

行	大項目 項目	分類	要約	作業部会意見まとめ
39	公表	W		
40	廃水等について、事業所がどの程度改善策を行ったのかわからない、見えない。	W	工場等事業所の改善策が分かりづらい。 工場等事業所の廃水の安全性が分かりづらい。	工場等事業所の改善への取り組み等に関する情報の提供
41	大気汚染に関して工場等事業所がどの程度改善策を行ったのかわからない、見えない。	W		
42	CSRの観点からも公表すべきである。	W		
43	工場等の廃水が安全か市民は確認できない。	W		
44	水 - 水道	W		
45	水資源の所有者が海外になる不安がある。	W	水資源の所有者が海外になる不安がある。 水道水の適正な管理が必要である。	安全、安心な水道水の提供
46	水道のカルキ臭が強い。	W		
47	配水管の老朽化が原因なのか、事故が起きている。	W		
48	下水道	W		
49	下水道の市街地中心の接続が低い。	W	下水道に接続していない家がある。 下水道料金が低い。	水洗化率の向上 下水道事業の効率化
50	下水が整備され、川がきれいになったが、まだ悪臭があるため、水洗化率の向上を図る。	W		
51	環境税を徴収すべきである。(対象者は、現在、下水道料金を免れている)	W		
52	水洗化率が向上し、身近な水路の水質がよくなり、悪臭がほとんどなくなった。	W		
53	下水道に接続させていない家がある。(タレ流し)	W		
54	未水洗化は高齢化世代の問題があるのではないか。	W		
55	下水の普及で早く来て欲しいが、来るとなると費用がかかるのでいらない。	W		
56	下水道負担金が高く土地の面積割合が上水道と同じである。	W		
57	汚水を川に流す人には、ペナルティを課すべきである。	W		
58	合併浄化槽を市が管理できるようにした。	W		
59	緑 - 緑化の推進	W		
60	駐車場の緑化(緑地面積)が増えていない。	W	緑地面積が増えていない。	緑化の推進 長野市にふさわしい緑化のあり方 長野市にふさわしい緑の維持管理 緑に対する住民協力意識の高揚
61	駐車場の一定の緑化面積の義務化(見直し)が必要である。	W		
62	企業の緑化が進まない。	W		
63	庭のない人、マンションの人は、記念樹をもらえない。	W		
64	戸隠など自然の美しい所が多い。	W		
65	ホタルがいる所が増えている。(増やす活動が広がっている)	W		
66	緑 - 緑の維持管理	W		
67	街路樹の剪定・管理が悪い。	W	街路樹の管理に専門家の意見を導入し、 長野市にふさわしい街路樹の方策を立てる。 草取り・剪定などが行われていない。 緑に対する認識が低い。	
68	街路樹が貧相である。	W		
69	街路樹に関して専門家の意見を取り入れるべきである。	W		
70	街路樹が生育不良である。	W		
71	街路樹の剪定技術を向上する必要がある。	W		
72	街路樹の舗装の押し上げが課題である。	W		
73	強度な剪定のため十分な緑の効果が望めないケースがよく見られる。	W		
74	樹木の伸長と枝払いには、緑化と倒木対策の両面を考慮する必要がある。	W		
75	長野市にふさわしい街路樹のあり方を検討し、方策を立てる必要がある。	W		
76	長野松代インターよりバイパスの植樹帯が草だらけだが、国道のため改善の糸口が見えない。	W		
77	幹線道路沿線が荒れている。草取り・剪定などが行われていない。	W		
78	緑 - 住民協力意識	W		
79	身近な道路や川の掃除は、隣近所で行うべきである。	W		
80	地域の街路樹や共有部分の草取り・草刈りができない地域がでている。	W		
81	緑に対する認識が低い。	W		
82	公園愛護会等に住民自治協議会が機能していない。	W		

2-3 良好な生活環境の形成

行	大項目 項目	分類
83	緑 - 市街地	W
84	屋上緑化が進んでいない。	W
85	屋上緑化に対する補助金の支給、ノウハウの提供が必要である。	W
86	中心市街地にビオトープが少ない。	W
87	長野駅西口の緑関係のインパクトが少なく、長野市のイメージが悪い。	W
88	中心市街地に公園 緑が少ない。	W
89	長野市の街中は、ポケットパークなどの整備がすすんでいる。	W
90	商店会の協力もあり、花フェスタが根付いてきた。	W
	企業 団体等の緑化活動を評価する仕組みが必要である。	W
91	公園の質	W
92	利用されていない街区公園・児童公園が多い。質の向上を図る。	W
93	樹木等の緑の少ない公園が多く、公園緑地面積に対し、実質的な緑の量が少ない。	W
94	身近な公園である街区公園の数が少ない。	W
95	街区公園が児童遊園程度の規模(面積)であり、質が低い。	W
96	立派な公園が多く、予算をかけすぎである。土地の歴史をいかして公園をつくる。	W
97	飯綱高原は、都市計画区域に指定され、乱開発がなく良好な住宅環境が維持されている。	W
98	一の鳥居苑地や大座法師池周辺は良く整備され、市民の利用が多く見られる。	W
99	大座法師池(小天狗の森)が非常に混雑する時(休日)がある。	W
100	全国的に市民参加の公園づくりが進んでいるが、愛護会という名称は古い。	W
101	ドッグラン公園を整備する。	W
102	公園での犬のフンが目立つ。	W
103	ムクドリが増加など生態系が変化している。	W
104	公園の維持管理にかかるコストが(将来)心配である。	W
105	親水空間	W
106	親水空間として整備されている場所は、質が高いが、量が少ない。質のグレードを分け、量を増やす。	W
107	親水性のある水辺は増えていない。	W
108	親水水辺に関して、イベント開催等で周知する。	W
109	親水性水路が活用されていない。	W
110	護岸を石積みなどで整備し、水と親む空間を作っていく。	W
111	長野市内を流れる中小河川は都市に流れる河川にしてはきれいである。	W
112	費用負担を考えた上で、自然に配慮した水路の整備(維持管理)を実施する。	W
113	川の権利は、親水性活動への弊害となっている。	W
114	市街地に川が見られない。自然さがほしい。	W
(以下、整理において除外(統合)した項目)		
	コミュニティ	W
	住民関係が薄れてきており、昔のような地区においての良い関係が保ちづらくなってきている。	W
	水 - 下水汚染	W
	緑化	W
	緑 - 公園ニース	W
	緑 - その他	W
	水 - 河川	W

要約	作業部会意見まとめ
<p>屋上緑化が進んでいない。 中心市街地に公園 緑が少ない。 駅周辺の緑が少なく、長野市のイメージが悪い。 企業 団体等の緑化活動を奨励する。</p>	<p>中心市街地の緑化の推進 自然豊かな長野市のイメージの向上 緑化活動の社会的評価</p>
<p>街区公園等の利用頻度が少ないものがある一方、 街区公園等のない地域もある。 公園緑地面積に対し、実質的な緑の量が少ない。 土地の歴史をいかして公園をつくる。 公園の維持管理コストが不安である。</p>	<p>街区公園の適正な配置と利用促進 公園の質の向上 地域の特性をいかした公園づくり 戸隠、飯綱など、豊かな自然を楽しむ 空間の整備 生態系に配慮した緑化の推進</p>
<p>親水空間が少ない。 親水空間が活用されていない。 自然に配慮した水路を整備する。</p>	<p>親水空間の充実 活用と自然に配慮した整備</p>

環境に関する研究(専門)機関が少ない。

ごみ

ごみの出し方

ごみ袋が高い。規格基準が厳しい。

ごみの分別を徹底する。

家庭・事業所からのごみの分別は、おおむねできている。

可燃ごみの中に紙の混入が多い。企業の機密文書のリサイクル化を推進する。

廃タイヤの再利用を促進する。(無料回収)

ごみの有料化により、市民に資源を大切にする意識が高まっている。

事業所のごみをもっと減量させる方法を考える。

生ごみで、食べ物の残が多い。

収集

ごみ収集所(プレハブ)にごみを出す時間をもっと便利にしてほしい。

ごみ収集の時間を変更する。

ごみ収集の機会を10%減らす。

市民によりごみステーションがきれいに利用(管理)されている。

生ごみ自家処理器が普及しない。

レジ袋削減、エコバックの持参が普及していない。市民の意識が低く、また、メリットが少ない。

中山間地域では、生ごみ処理のコンポストが野生動物を誘引する。

ごみの分別収集はまだ細かくできる。リサイクル100%を目指す。(北九州市、富山市)

リサイクル

生ごみの飼料化・堆肥化を促進する。

生ごみの堆肥化・飼料化はあまり進んでいない。

建設工事等から排出された廃棄物が分別され、一部は再利用されている。

定期的なりサイクルバザー、ガレージセールを拡大する。

家電リサイクル法の対象とならない家電は不燃ごみとして処理されている。

資源物として回収できる品目を増やす。(容器包装以外のプラなど)

プラスチックごみの中に、汚れているものやプラスチック以外のものが混入している。

太陽光 雨水

雨水

雨水タンクを義務化する。

雨水の有効利用ができていない。

家庭用の雨水貯留施設を知らない。

透水アスファルトを拡大する。

家庭でのCO2排出量を可視化し省エネを図る。

太陽光

リフォームや借入ができない人が多く、事業所や家庭での太陽光発電システムの導入が進んでいない。

太陽光発電の個人住宅が増加している。

企業の太陽光発電システム設置に補助金を出す。

太陽光発電システムの設置に補助金を出す。

太陽熱利用温水器を広げる。

24時間営業は必要なのか疑問がある。

24時間営業の店の照明が明るすぎる。

CO2の数値意識がない。数値化する仕組みが少ない。

もったいない

もったいない意識の高揚を図る。

まだ使える品物が捨てられ、処分されている。仕組みが悪い(できていない)。

賞味期限を見直す。

有害鳥獣の肉を有効利用する。

地産地消、スローフードを促進する。

食べ残りを持ち帰る。

リユースカップを使用する。

バイオマス

森林間伐材が放置されたままになっている。

林地残材排出に係る事業費が高く、搬出が進まない。

バイオマスタウン構想は、今後どのような効果が出てくるのか分からない。

木質バイオマス資源の活用が始まった。

薪ストーブをもっと普及すべきである。

移動製材機を導入して民間に貸し出し、木材として利用、または燃料とする。

太陽光設備による発電量が少ない。

木の炭化とその活用を促進する。

新エネルギー導入に多額の経費が必要である。

水車エネルギーをもっと活用したい。

剪定枝の分別回収は大変良いと思う。

意識向上

スーパーではマイバック持参の人が多く見られる。

コンビニではマイバック持参の人が少ない。

マイバックを持参して買い物をする市民が増えている。

環境への取組に係る費用と効果の検証が後回しになっている。

市民意識が醸成されていない。

詰め替え製品を利用する。

長期利用できる住宅、家具を購入する。

ながのエコ・サークルに認定されることがモチベーションの向上につながるようにしてほしい。

